

静清バイパス 工事状況写真

①丸子藁科トンネルⅡ期線（西側）



平成 27 年 2 月撮影

トンネル掘削の準備をしています。

②丸子藁科トンネルⅡ期線（東側）



平成 27 年 2 月撮影

トンネルを掘削しています。

写真位置図



静清バイパス（H27.3.1 開通区間）整備効果

- ・今回の開通により、**静清バイパスの利用交通量は約1割増加**しています。
- ・利用交通量は増加しましたが、特に4車線拡幅区間（鳥坂IC～千代田上土IC）では渋滞が解消され、**朝ピーク時（7時台）の所要時間が約15分短縮**（約46分⇒約31分）されました。

■ 交通量の変化



■ 牧ヶ谷IC付近における交通状況



■ 千代田上土IC付近における交通状況



- ・静清バイパスを利用する企業からは、通勤時や輸送時の所要時間の短縮を実感する声や、今後の企業活動における物流効率化などの期待の声をいただいています。
- ・開通により所要時間のばらつきが改善され輸送時の速達性・定時性が向上しています。

① 通勤時の変化

■ 通勤ルートの変更

《開通前》：国道1号現道

※流通センター企業へのヒアリング調査より



《開通後》：静清バイパス



② 企業活動(輸送時)の変化

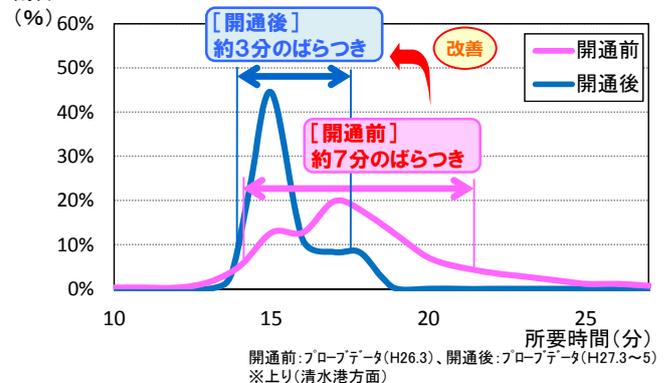
■ 所要時間のばらつき(遅れのリスク)の減少

○ 清水港発着の輸送経路

清水港発着貨物車両の利用割合
 ・静清バイパス：約6割
 ・東名高速道路：約2割
 ・国道150号：約1割
 ・その他路線：約1割
 ※出典：商用車プローブデータ(H26.7)



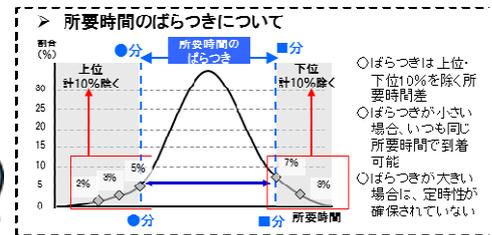
丸子IC⇒長崎ICにおける所要時間(ばらつき)の変化



【静清バイパスを利用する企業の声】

「業務における効果と期待」

- ・千代田上土IC～鳥坂IC間の慢性的な渋滞が解消され、配送時間が計算しやすくなりました。
- ・お客様への到着時間の設定や、到着荷物の入庫時間の確定がしやすくなり、迅速な配達と輸送回数の増加が可能になります。
- ・渋滞の解消で余裕ができ、スムーズな活動が見込まれます。
業務面でもエリア拡大に期待しています。
- ・走行時のドライバーの肉体的、精神的負担が軽くなります。



現在、牧ヶ谷IC～丸子IC間の4車線化(平成30年度予定)と清水立体化事業を進めており、これらの整備により、清水港や東名・新東名などへのアクセス性がさらに向上し、地域経済の発展へ寄与することが期待されます。

国道1号静岡バイパス 清水立体

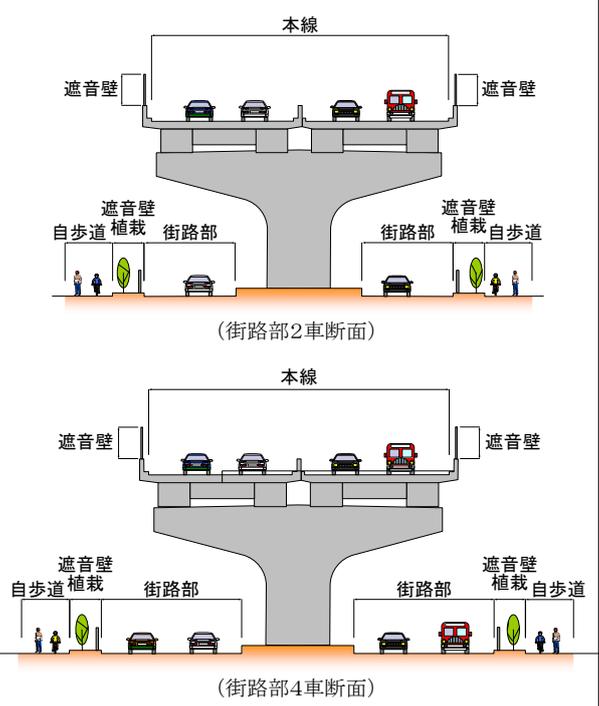
国道1号静岡バイパスのうち、既に平面部として供用している静岡市清水区横砂から同区八坂にかけて、渋滞緩和、交通事故削減、沿道環境改善を目的として立体化を行います。



渋滞状況写真 ※庵原交差点付近(名古屋方向を望む)

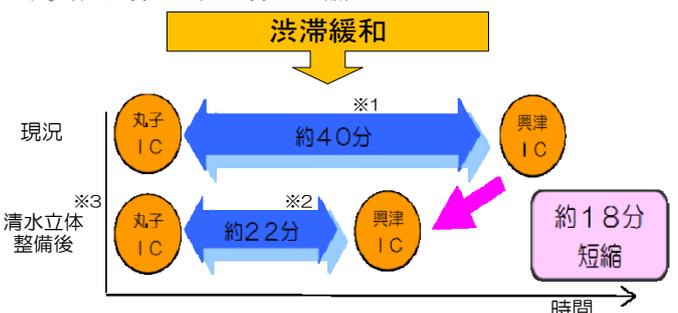


清水立体 断面構成



清水立体整備効果

・静岡バイパス丸子IC～興津IC間の所要時間が、約18分短縮されます。(約40分から約22分に短縮)



※1 民間プローブデータより算出
 ※2 静岡BP4車線区間の民間プローブデータを用いて算出
 ※3 静岡BP全線立体4車線完成時
 民間プローブデータ:平日7時台平均旅行速度(上り線) [H25.4~8]

清水立体詳細図

